

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	入所者の居室に表札を表示しているが、「様」敬称が付けられている。自分の部屋の表札に敬称をつけているのは不自然である。また、居室ドアにはめ込まれた透明のガラスはプライバシーの配慮に欠ける面が見られる。	表札については敬称を削除し、入所者一人ひとりと共に考え、表示したり、装飾する。自分の部屋であり、家であるという認識を高めてもらえるよう支援する。透明ガラスについてはのれんをかける等し、プライバシーを保護する。	・表札の敬称を削除する。 ・各担当で入所者と共に考えて、居室玄関を装飾する。(のれんや花を飾るなど)	2ヶ月
2	36	トイレ内にパッドを置いて、個人名を表示している。これでは、誰がオムツを使用しているか一目瞭然でプライバシーの配慮に欠けている。	職員一人ひとりがプライバシーを侵害していることを認識し、誰がオムツを使用しているか分からないように配慮する。トイレ内も施設っぽさを取り除き、居心地の良い空間にする。	・トイレ内のパッドは色付の籠で区別し、個人名を表示しないようにする。 ・トイレ内に花を飾る等、居心地の良い空間を検討し、実施する。	3ヶ月
3	40	食事について、調理の手伝いや片付けをする入所者もいるが、大部分は職員が行っている。また、入所者が食事中に立って見守っている。	入所者の出来ることは最大限引き出せるよう職員間で意識を高める。また、食事は職員、入所者が共に同じ食事ができるようにし、コミュニケーションが充実する。	・職員間で話し合いを行い、入所者に出来ることを引き出すよう意識統一を図る。 ・職員の食事を入所者と同じものを食べれるよう計画する。	6ヶ月
4	1	自宅に近い暮らしを支援する地域密着型サービスの意義を念頭に置いて支援しているようには見られない。特に職員の制服は入所者に対して、「世話をする側」「世話をされる側」と区別される。見た目も施設っぽくなり良くない。	各職員にグループホームは自宅であるという意義を周知徹底させて、業務に取り組むことができるようにする。制服については、私服に近い服装に変更する。	・法人の理念、行動指針に沿ったグループホーム独自のスローガンを考える。 ・脱制服計画を実施し、私服に近い服装に変更する。	10ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。